

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会会報

2009年7月1日

第2号

初の見学会を実施 まず海軍関係から 44人が参加 「感動した」「勉強になった」

前日の雨がうそのように晴れ上がった6月6日午後、予定通り、わが会初の戦争遺跡見学会を行った。参加者は44人。11台の車に分乗して、鈴鹿海軍航空隊関連で正門と番兵塔、号令台、3棟の巨大格納庫、地蔵大松、鈴鹿海軍工廠関連で火工部の工場、火薬庫、試射場のコンクリート製の的を見学した。岩脇彰先生の分かりやすい説明に加え、現地や移動の車中では、当時を知る人のなまなましい体験談もあり、多くの人が「有意義な時間を持てた」と喜んでくれた。



(鈴鹿海軍航空隊格納庫前にて)

NTTが見学OK

格納庫の見学はむづかしいと思っていたところ、所有するNTTは新聞、テレビの取材なしなどの条件つきで認めてくれた。これまでは、なしのつぶてだったので、誠意ある対応をうれしく思った。格納庫の保存を本気で実現しようとするれば、所有者たるNTTの理解なしに何ひとつ進まない。初めてできたこの関わり、信頼関係を最優先して、会員の理解を得つつ出された条件をすべて受け入れた。見学に付き添ってくれたのは、この研修施設跡を管理している関連会社、NTTファシリティーズ東海(本社・名古屋)の担当課長と課長補佐。今後も私たちの会の窓口になってくれることになった。



(格納庫に今も残る海軍の錠前)

やはり巨大 3棟の格納庫

格納庫はもともと5棟あった。うち第3、第4、第5の3棟が東西に並んで当時のまま残る。西側の第3と東側の第5の格納庫はそれぞれ80m×40mの3200平方m、真ん中の第4が40m×40mの1600平方mの広さ。鉄扉の高さは8mある。第3と第5は5本のレールがついており、10枚の扉を、第4は3本のレールで6枚の扉を、同時に開けることができる。第5格納庫の扉には錨の形をした錠がついていた。敗戦数ヶ月前、旧制神戸中3年のとき航空隊に隣接する三

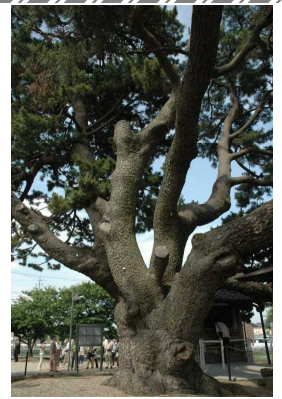


(鈴鹿海軍航空隊正門跡)

菱重工で働いたという山口俊彦さんは、格納庫を背に「ペンチなど小道具を運ぶ雑用をしていた。機銃掃射を受けて滑走路の南側にあったカマボコ型の格納庫に弾痕が残るのを目撃した」と感慨深げに語っていた。小栗康平監督の映画「埋もれ木」支援の会の制作チームリーダーだった森田英治さんは「3つの格納庫全部を使って撮影した。セットの取替えの必要がなく、効率的な撮影ができた」と話したあと、「当時は戦争遺跡という意識は全くなく、認識していたら、建物を見る目も違ったのに」と悔やんでいた。

海軍に勝った地蔵大松

西玉垣町にある地蔵大松は戦時中、航空基地の発着の邪魔になるとして伐採が検討されたが、飛行機が3機墜落したり、担当官が急病になったりという事故や病気が続発したので、伐採作業は急遽中止された。「海軍に勝った松」という伝承が地元に残っている。大松を見上げながら、そんな岩脇先生の説明に、多くの人が「へええ、知らなかった」。



(地蔵大松)

民家に使われる火工工場

海軍工廠建設のための軍用道路としてできた中央道路を通過して平野町の火工部（弾を生産）の工場跡と火薬庫跡へ。ホンダもベルシティもサーキット



(鈴鹿海軍工廠火管圧填工場跡)

の一部も海軍工廠の跡地に造られているが、ホンダの買収地に入らなかった地域にこうした施設が残った。機銃の弾に火薬を詰める工場なので、コンクリートで頑丈に造られ、しかも、誘爆を避けるため小部屋に仕切られている。仕切りをそのまま利用したアパート、基礎と壁を残した民家を見た。偶然、会員の親戚がそんな家の一つで、中まで入れてもらった。厚い壁をそのまま利用している造りに「暑くないですか」と家人に問う会員もいた。火薬庫はこじんまりしたレンガ造り。農家の庭先にあり、物置に使われていた。

試射場跡の巨大壁

三方をコンクリート製の壁で囲った住吉町の巨大構造物は、機銃の性能を確かめる試射場跡。という説明を聞かなければ、いったい何に使ったのか分からない奇異なものだ。内部に土を盛って、それを的に数百メートルのところから13ミリ機銃や7.7ミリ機銃を撃ったという。試射のときは農作業を含めて付近住民の立ち入りは禁止。周辺の畑地にはずれた銃弾が飛んできた。いまはリサイクル会社、フジコウの敷地になって土は撤去され、ドラム缶が置かれていた。フジコウから約1km東側の林の中に弾薬庫があり、車中からそれを見ながら帰路についた。

西玉垣町の地蔵大松では、みかはうす（前どじはうす）の、平野町の火工工場跡では、ホンダロジスティクスの、それぞれ駐車場を使わせていただきました。住吉町の試射場跡では、フジコウの敷地内に入らせていただきました。おかげさまでスムーズな見学ができました。NTTはじめ、便宜をはかって下さったみなさま方に、心からお礼申し上げます。



(鈴鹿海軍工廠火工部弾薬庫跡)



(鈴鹿海軍工廠試射場跡)



(鈴鹿海軍工廠火管圧填工場跡内部)

現代日本の「基層」を見せてくれる戦争遺跡

《(鈴鹿で勤務したことのある津市在住の医師、吉田洋一さんから入会届とともに長文の手紙をいただきました。吉田さんの了解を得てその抜粋を紹介させていただきます。》

小生は昭和4年(1929年)生まれで、元外科医。現在も松阪市・薬王堂病院にパート勤務いたしております。以前、昭和53年(1978)から5年間は、鈴鹿市神戸にありました厚生連・中勢病院(現在の鈴鹿中央病院)の副院長として勤務いたし、そのころ鈴鹿市内のあれこれと旧海軍の遺跡があることに関心をそそられました。鈴鹿の市制そのものが往時の同航空隊および海軍工廠の開隊あるいは設置にかかわることも知った次第です。

そのような関心の淵源としては、小生が戦時末期に旧制中学から海軍兵学校に進学し、半年足らずで敗戦を迎えたこともあります。以後の時代に変転を重ねる世相の中で、この国がいかにあるべきか深く考えさせられたことでした。むろん、戦争放棄の憲法を是とします。同時に、明治以来、対外戦争を重ねてきた往時の日本のあり方を忘れるわけにも参りません。そうして、その痕跡が容易に棄てられてよいとも、思えません。少なくとも現代日本のありようの表層はともかく、根には、かつての日本があったことを深く認識すべき、と考えるからです。

さて、小生が中勢病院に勤務ののち何年かたって、当時電電公社の施設になっていたところで春の観桜のため施設の一部が開放されることがありました。出かけてみたところ、門をくぐってすぐに、ああこれは旧海軍の施設だと直感できました。施設のありよう、建物の配置など、少年のころ親しんだ海軍施設の風情が即座によみがえったからです。並木の桜の樹齢そのものも開隊と同時に植えられたとして合うからでもありました。ご存知でしょうが、旧海軍はことさら桜を好み、他の施設でも桜が植えられ、また私がかつて被った制帽の記章も、短剣の文様も、錨に加えてしきりに桜をあしらってありましたから。そして、施設の門の外に建てられた碑(「碧空」と刻んである)の書き手が、元県立第一中学校(現津高校)出身で兵学校50期(大正11年6月卒)の増田正吾氏だ、とも知りました。同氏は昭和14年に鈴鹿航空隊飛行長として赴任ののち、同16年には空母「赤城」の飛行長として真珠湾攻撃に参加しています。戦後は津に帰り、昭和51年に同碑を書き、55年9月に80歳で亡くなりました。

他方、海軍工廠についてはほとんど知りませんが、小生の絵描き友だちで2歳ほど年上の方が、往時、私立高田中学校の生徒として同施設に勤労働員され、機銃装備などで働き、また監督役の兵曹からひどく扱われた話を何度か聞かされました。現在80歳くらいの方なら忘れずにいることでしょう。その意味でも、往時の記録はこれからでは間に合わないこともあると、思われます。

いずれにしても、鈴鹿では、これらの施設や跡地が、戦後間もなくは紡績会社の工場になったとも聞いています。小生が中勢病院勤務のころに、本田技研が誘致されたのだったと思います。ホンダ関係で集まった人たちやその家族を診察したことが思い出されます。若い勤労者たちの家族が北や南の方言を話すのを、私はたいへん楽しく聞いた覚えがあります。鈴鹿市はこうして大きくなっていった、と実感したものです。軍都ということでは、千葉県館山市が旧海軍の施設(航空隊や砲術学校その他、防空退避壕など)の保存と案内が先進的だ、と聞いた覚えがあります(未見ですが)。旧軍港の呉市には「大和ミュージアム」などがあり、工廠関係の展示と説明が詳細です。呉の工廠は、小生の関連では、健康保険組合の日本での最初の実施施設でもありました。展示ではなく、健保の歴史で知ったことで、明治年間だったと思います。これらのことは、視点、観点はともあれ、現代の日本の基層・由来に、こうした別の時代があったことは、知って伝えてゆくべきことでしょう。

以上、つたない伝聞や感想を述べてしまいました。

吉田洋一



(「碧空」の碑の前に立つ吉田洋一さん)

見学会感想集

岩崎ひろ子さん

鈴鹿市が軍都であることを如実に実感いたしました。もしや戦争が長引いていたら、恐らく原爆が落とされていたかと考えたりすると冷や汗が出ます。戦時中から鈴鹿に住んでいましたが、このようなことは知らないままに青春時代を過ごしていました。平和日本のためにも、戦争を知らない子どもたちのためにも、戦争遺跡を保存すべきだと強く感じました。

都築昭子さん

足を運ぶことがとても大切であることがわかりました。平和利用の一助となるよう共にごがんばりしましょう。

新井友尚さん

とても貴重な体験でした。資料などあらかじめ勉強はしていたのですが、百聞は一見にしかず、たくさんの発見がありました。とりわけ格納庫の重厚さには驚きました。写真では分からない正面扉のレールなど思わず当時の光景を想像してしまいます。それだけに「貴重な遺産」と市民が声を上げられていることに共感します。私をはじめ若い世代がもっと関心を持ち、二度と戦争を起こしてはならないと思うには、無言で語る戦争遺跡を保存していかなければと思いました。

中山美保さん

初めて行くところばかり。みなさんと時間を共有できてとても幸せでした。6号車は「初めまして」の人たちばかりでしたのに、全くそんな気がしませんでした。見学途中も参加者の方々が話しかけてくださり、鈴鹿の歴史をたくさん学ぶことができました。NTT西日本跡地へ入らせていただいた時は、香良洲の歴史資料館に展示されていた「白菊」が思い出され、この地から飛び立っていった少年たちに思いをよせました。そして学徒動員を経験された方の生の声を格納庫の前で聞かせていただくことができ、ますます格納庫を保存したいという気持ちが強まりました。

匿名希望

格納庫3棟を初めて拝見させていただきました。全国的にも貴重な遺跡と70年前の様子を垣間見ることができ、有用な見学会でありました。地蔵大松の伝承木や平野町の火薬庫や工場遺跡は、40年鈴鹿に住んでいる私には寝耳に水であり、今回の貴重な遺跡探訪は目から鱗でした。次回は陸軍遺跡と伺いました。楽しみにしています。車中や会場で感じたことですが、生き字引の御仁が多いと拝察しました。交流会を企画して存分に話していただければ、情報の共有と進展が計れように存じます。

桐生小百合さん

見学会は貴重な体験や発見ができ、とてもうれしかったです。とくにNTT跡地は奥まで入れ、直接目に触れ、改めて保存の必要性を強く感じました。総会時には中に入れないと話されてましたから今回は無理だろうと思っていました。制限つきでも直接格納庫までいったのは、スタッフのみなさんががんばっていただいたからと感謝します。平野町の工場や火薬庫は今まで自分でも探しにいったのですが、なかなか見つからずに帰ってきました。でも、道に迷いウロウロしたときに通った記憶のある風景もあり、やはり知らないから気づいてなかったなと思っています。住吉のコンクリート製の壁は、冬場になると蔦が枯れコンクリートがむき出しになります。以前からこの壁は何だろうと不思議に思っていたものだったんです。真下から見上げたのは圧巻でしたね。今後、ぜひぜひ三畑の掩体壕や高塚の跡地、そして亀山野裏野の格納庫跡などにも行ってみたいです。

佐野彰司・美琶子さん

大変よい勉強をさせていただきありがとうございました。現代では「戦争」というものがアニメ、ゲームのように言葉が遊び、踊っているような気がしています。戦争遺跡という実物をきちっとした形で保存、公開し、次世代があやまちをくり返さないために活用してほしいと思います。「生き

証人」のお話も聞け、有意義でした。

匿名希望

今日の見学会は私にとって大変意義深いものでした。旧電通学園はなつかしいところばかりでした。はげしい戦争の話を書くにつれ戦死した父を思い起こしました。私が幼いころ、母は竹やりの訓練に行っていました。そんな姿が浮かんできました。空襲警報のサイレンが鳴ると、家中暗くして急いで防空壕に入りました。海軍工廠を狙って投下された爆弾がはずれて算所のお宮さんに落ちました。その時、近くの農家に飼われている牛の首が飛んでいったと聞きました。津に投下された焼夷弾はまるで隣村の火事のような様子でした。そのころ、わが家は農家でしたので、芋や大根は沢山ありました。夕方になると海軍工廠で働いている人がおなかをすかせて蒸したさつま芋とたくわんを代わる代わる買いにきました。戦時中の記憶はまだまだ沢山ありますが、今思い返すと、多くの人々の犠牲のもとに現在の平和と豊かさがあるのだなとありがたく感じます。とりとめのない文になってしまいましたが、今日の見学会はふだん忘れていたさまざまなことを思い起こすありがたいひとときでした。

山中悦子さん

大変興味深く楽しい時間を過ごさせていただきました。鈴鹿市が軍都であったことは聞いておりましたが、現実感がなく、一つ一つ見せていただいて、軍の施設跡が市民のふつうの生活の中に今も溶け込んで残っていることに、とても驚きました。百聞は一見に如かず、を実感いたしました。鈴鹿に生まれ育ったのに、いかに不明であったことか。一つにはある意味で戦後、故意には言わないまでも、隠したいという気持ちがあったかもしれませんね。格納庫をどういう形で保存していったらよいのでしょうか。よくあるように、あまりにも整然と保存されてしまっても、かえって施設を祀りあげてしまうことになりかねないと心配致します。私としては、今の状態のまま、小中学校の社会科見学コースにしてはいかがかと思えます。平和教育の教材は遠くにあるのではなく、ごく身近にあることを子どもたちに知らせてあげたいのです。N T Tの正門脇に鈴空会の慰霊碑があったことも強い印象を受けました。鈴鹿の航空基地から飛び立った兵士が何人も亡くなっているのですね。多くは鈴鹿の人ではないのかもしれませんが、生き残った兵士や遺族がどのような気持ちでこの碑を建てたのかと思うと胸が熱くなります。鈴鹿人が知らなくて申し訳ない気持ちにもなります。建立は昭和51年になっていたもので、建てられた方々も年をとられているのですが、そういう方にも話をお聞きしたいと思いました。地蔵の大松は以前から知っていましたが、海軍さんに勝った松とは知りませんでした。伐られずにすんで本当によかったですね。あの大松の近くの山上池の処に玉垣の共同墓地があり、そこに15基の若い戦没者の墓が並んでいます。「すさまじや村に十五の戦没墓」なんて駄句をひねってみたいと思いました。

吉田洋一さん

それにいたしましても、本日のご案内は見事でした。よく現地を視察なされ、確かめられただけでなく、現在の民家の内部にもご案内いただけるなど、事前の調査や気配りはひとかたならぬものだった、と推察いたします。分乗させていただいた車の女性の方も熱心でした。こればかりは、かつての男どもの世界とされた場面であっても、広い意味での歴史探訪・歴史の把握・追体験という意味で大切なことと思えます。旧航空隊の号令台で思い出したのは、その近くに軍艦旗の「掲揚塔」がきつとあったに違いなかるうということでした。というのは、往時の日課、礼式として、午前8時ちょうど、号令台上に司令が立ち、当番勤務以外の全員が台下に集合して、ラップとともに1分間かけて軍艦旗掲揚の儀式があったはずだからです。(中略) 明治期に西欧に遅れて出発した日本は、先進諸外国に追いつき対峙するため、天皇制の枠内でありながらも合理化をせまられて、ある種の平等と合理化を進めたことでしょう。しかし、その間のひずみを自身の力で制御できなかったために、さまざまな悲劇や犠牲を生んだように、私は見ます。鈴鹿の戦争遺跡の中にもそれが見えるように思います。あの広大な土地を民衆から取り上げて、そこに生じた恨みが、あの松に象徴される“無言の抵抗”も生んだのでしょうか。しかし今、その跡地にホンダなどの世界的な企業を誘致できたのでもあります。往時のありようを今となって知り確かめるには、かつて現地で働き、行動した人々のナマの声を集めておくことが必要かと存じます。

いわとびぺんぎんさん

担当者の監視のもと、広大な土地に立つ格納庫を見学させて頂き、保存・平和利用すべく署名やカンパ等ではどうすることもできないと感じた半面、悲惨な戦争を二度と起こさないため、また風化させないため、「この格納庫の一つを戦争の証として役立させて欲しい」という太っ腹のN T Tの役員さんはいないのだろうかと思いましたね。

試射場のコンクリート製の的。取り壊すことなく末永く現状維持してほしい。戦争犠牲者の叫びが響くようであった。戦後生まれの私は戦争に対する関心も薄く“平和”にどっぷり漬かっておりますが、戦争遺跡を目の当たりにしまして、改めて後世に語り継いでいく必要性を実感いたしました。

鷲尾敏美さん

鈴鹿のFM放送局が発行する、情報誌の取材で見学会に参加させていただきました。貴重な体験を得られたことに感謝しています。

見学会で子どもの担任だった先生にお会いしました。先生は夏休みに市内の戦争遺跡を調べる宿題を出された方です。「岩脇先生にいろいろ教えてもらって勉強中」とのことで、今回の見学会に参加されたそうです。「あのとき（子どもが小6のとき）は勉強不足だったので、（戦争遺跡のことを）くわしく教えてあげられなかった」と話されましたが、わたしは子どもの宿題のおかげで、鈴鹿市が軍都であったことを知りました。教育熱心な先生がいらっしゃる事が、とてもうれしく思いました。また、同行のカメラを担当してくれた瓦谷さんは「仕事でかかわりがあったから、こうして見学会に参加できたけれど、そうでなかったら市民の会のことはもちろん、戦争遺跡のことも知らなかっただろう」と、話していました。情報を発信する者として「ラジオのリスナーや情報誌の読者に、大切なことを自分達なりに伝えていきたいね」と話しながら、帰路につきました。

☆ご 案 内☆

◎学習会

- 日 時 ; 2009年9月5日(土) 午後1時～4時
場 所 ; 白子公民館(近鉄白子駅東徒歩5分)
内 容 ; 「私の学んだ戦史」と題して会報1号で紹介した木村三郎さんからお話をうかがう予定です。

◎第2回遺跡見学会

- 日 時 ; 2009年11月28日(土) 午後1時～4時
集合場所 ; スズカハンター駐車場(近鉄平田町駅から徒歩10分)
内 容 ; 鈴鹿市内の旧陸軍関係の戦争遺跡を巡ります。
陸軍第一気象連隊跡、陸軍第一航空軍教育隊跡、北伊勢陸軍飛行場奄体、など



陸軍第一気象連隊跡碑



陸軍第一航空軍教育隊弾薬庫跡



北伊勢陸軍飛行場奄体

編集後記

会報2号は戦争遺跡の見学会特集にしました。参加された方々は強い衝撃や感銘を受けられたようで、たくさんの感想をいただきました。すべて収録しましたが、その思いの深さに教えられ、励まされました。(竹)

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代 表 加藤二三子、竹内宏行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電 話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

H P <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>